

第2回美里町産業活性化拠点施設整備検討会議 会議録

1 開催日時 平成27年11月5日（木）14時00分～16時00分まで

2 開催場所 美里町中央コミュニティセンター 第3研修室

3 会議に出席した者

（1）委員

NO	氏名	所属等	役職等	備考
1	栗野 敏夫	スカイラクアワノ	代表	
2	涌井 良宣	美里町認定農業者連絡協議会	会長	
3	東 順子	NPO法人日本セラピー普及会 施術室「優しい手」	代表	
4	渡部 憲明	株式会社 渡辺採種場	企画・開発部部長	
5	尾崎 勝	みどりの農業協同組合	常務理事	
6	渡邊 新美	遠田商工会	会長	
7	木村 晴夫	美里町物産観光協会	会長	
8	岩本 智志	七十七銀行小牛田支店	支店長	
9	伊藤 勝則	古川信用組合小牛田支店	支店長	欠席
10	佐々木 守	美里町	副町長	

（2）その他

1	高力美由紀	公立大学法人宮城大学事業構想学部事業計画学科	准教授	
2	庄司 和弘	ホライズンコンサルティンググループ株式会社	代表取締役	欠席
3	山内 一也	元 河北新報社小牛田支局	記者	
4	松本 章	国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所交通対策課 ※代理 同交通対策課 専門官 齋藤 明	課長	

（3）事務局

1	佐藤 淳一	産業振興課	課長	
2	小林 誠樹	産業振興課 産業活性化戦略室	課長補佐兼室長	
3	川名 秀明	産業振興課 産業活性化戦略室	産業活性化推進係長	
4	鎌田 拓也	産業振興課 産業活性化戦略室	主事	

1	萬代 祐介	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	技師	
2	山本 和幸	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	副室長	
3	松戸 努	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	技術主査	
4	相澤 達也	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	主任	
5	大利 泰宏	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	理事	
6	石田 浩人	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	主任	
7	太田 啓介	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	担当次長	

- 4 議題及び会議の公開・非公開の別 非公開
- 5 非公開の理由 立地候補地など用地取得に関する内容が含まれるため、会議内容が事前に公表された場合、用地交渉等の事務事業の円滑な執行に支障をきたすことが懸念されるため非公開とする。
- 6 傍聴人の人数 ー
- 7 会議資料 資料１：全体の流れ
資料２：ニーズ調査について
資料３：整備計画について
資料４：今後のスケジュール
参考１：消費者ニーズ調査結果（地元客）
参考２：消費者ニーズ調査結果（観光客）
参考３：生産者ニーズ調査結果（農業関係）
参考４：生産者ニーズ調査結果（商工関係）
参考５：第１回検討会議 会議録
- 8 会議の概要 別紙記載のとおり。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成２７年 月 日

委員 氏名 _____ 印

委員 氏名 _____ 印

【次第】

- 1 開 会
 - 2 座長挨拶
 - 3 会議録署名人の選任について
 - 4 協 議
 - (1) ニーズ調査について
 - (2) 整備計画について
 - ア 施設コンセプトについて
 - イ 機能・サービスの導入及び施設規模等について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) その他
 - 5 閉 会
-

(佐藤産業振興課長)

本日は、御多忙のところ、御参会いただきまして誠にありがとうございます。本日、司会をさせていただきます美里町産業振興課長の佐藤淳一でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に本日、古川信用組合小牛田支店長伊藤勝則委員様、ホライズンコンサルティンググループ(株)庄司アドバイザー様から欠席のご連絡がございましたのでご報告いたします。

それとオブザーバーとして東北地方整備局松本章課長様が本日急きょ予定が入りまして、代理ということで専門官の齋藤様にご出席いただいておりますのでご報告いたします。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

開 会

(佐藤産業振興課長)

それでは、ただいまより、第2回美里町産業活性化拠点施設整備検討会議を開会いたします。はじめに座長の副町長佐々木守から御挨拶申し上げます。

座長挨拶

(佐々木座長)

皆様、こんにちは。今日は大変お忙しい中、第2回目の検討会議にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。本日は次第にございます整備計画等についてご協議を申し上げますのでよろしくお願いいたします。

会議録署名人の選任について

(佐藤産業振興課長)

続きまして会議録署名人の選任でございますが、会議録署名人につきましては第1回検討会議申し合わせのとおり、名簿の順でお願いしたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

（佐々木座長）

第2回の検討会議につきましては、名簿順で今回は渡部憲明様、尾崎勝様にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

協 議

（佐藤産業振興課長）

それでは、続きまして4.の協議に入りたいと思います。座長よろしくお願いいたします。

（1）ニーズ調査について

（佐々木座長）

それでは協議の（1）のニーズ調査について事務局から説明をお願いいたします。

（小林室長）

皆様、改めましてお疲れ様でございます。本日はありがとうございます。事務局を担当しております、小林でございます。それでは（1）ニーズ調査についてお話をさせていただきます。前段で本日の会議の流れも併せてお話をさせていただきたいと存じます。まずお手元に資料1を御準備いただきたいと思います。

本日、第2回目の会議でございます。第1回は8月21日に開催をしました。ページをめくっていただいて2/3ページですが前回、こういった流れの中で計画コンセプトの素案として皆様にお示しをしまして、それ以降様々な調査をして、本日の会議で御提案をさせていただくところでございます。

もう1枚めくっていただきますと前回お示しをさせていただきました計画コンセプトに対して、こういった活動をしてきたか大きく流れを表示してございます。1つは消費者のアンケート調査をしてきたというのが1点、さらに、グループインタビュー調査をさせていただきました。これらをもとに本日の議題でございます施設コンセプトについて皆様から御意見を頂戴したいと思います。もう1点は資料左下にあります整備計画の方針の策定・協議ということで、この2点を本日、協議いただきたいと思います。右下の管理運営方針については次回以降の検討会議に協議したいと考えております。大きくはこの2点を本日協議していただきたいと思います。

それでは資料2を御準備いただきたいと思います。ニーズ調査ということで前回、第1回目の会議の際に様々な調査を準備して取り組みますとお話をしたところ、山内オブザーバー様、高力アドバイザー様、庄司アドバイザー様にぜひ消費者のインタビューを実施してはどうかと御提案をいただきました。各委員さんの御協力をいただきながら、そういった調査も追加をして実施させていただいたところでございます。8月21日に第1回の検討会議をしまして計画コンセプトの案を御提示させていただきました。今回はそれに対してニーズ調査を絡めていくことによって施設のコンセプト案の検討、さらに、整備方針案の検討というかたちで考えてございます。

ニーズ調査の横にオレンジ色で表示してありますが、調査は大きく2つに大別して実施をいたしました。消費者に対する調査、もう1点は生産者に対する調査です。それぞれ地元客・観光客を視点においた調査、農家・商工業者を視点においた調査を実施させていただいたところでございます。それぞれ拠点

施設の利用の意向、あるいは期待を中心にアンケートさせていただきました。今回これらの調査をもとに施設コンセプトをより明確にし、整備方針を固めていくということでございます。

ページをめくっていただきまして、2ページ目はそれぞれの調査の詳細を簡単にまとめてございます。まず消費者の調査でございますが、対象1200名、有効回答者数で986人になっています。地元住民の皆様にも町総合計画のアンケートの際に一緒に実施をさせていただいた分でございます。

もう1点は観光客、域外の方々に対するアンケートでございます。前回御提案をいただいたところを参考にWEB調査というかたちでインターネットを活用した調査をさせていただきました。500のサンプルを目標にしておりましたが、547のサンプル数が確保できたところでございます。大きく仙台市、石巻市、大崎市でその市域に住んでいる方々のスクリーニングをしまして調査を実施したというところでございます。

次に生産者の調査でございます。地元農家約1100名の方を対象に調査を実施したところでございます。おおむね30歳以上の農家の皆さんを対象に実施しまして、回収されたサンプル数467名という状況でございます。調査にあたっては尾崎委員さんの御協力、農協さんの御協力をいただきながらJA経由での配布等をさせていただいたところでございます。

次に地元商工業者の調査でございます。476事業所に対しアンケートを配布させていただきまして67事業所から回答をいただいたという状況でございます。また詳細については参考資料1～4に掲載しておりますので後ほど簡単ではございますが御説明を申し上げます。

次に3ページ目でございます。これらの調査をどのように活用したのかという流れを図解で説明したところでございます。まず今お話ししました住民意向アンケート・周辺住民のアンケート、さらに、生産者のニーズ調査ということでこれらが計画のコンセプトに合致をしているかを検証させていただきました。さらにそれをもとにグループインタビューを経て、このコンセプトが果たして生の声にあっているかどうかコンセプトテストというかたちで実施させていただいたところでございます。それぞれ事業者の視点、消費者の視点というかたちで調査をさせていただいたところでございます。

次のページを御覧いただきたいと思います。4ページ目、5ページ目でございます。

本日差し替えの資料でお渡しをしておりました。お渡しした資料の年齢区分の集計が地元客については19～24才、観光客については20～39才ということでバランスを欠いたものをお出ししてしまいましたので年齢をくり直して、皆さまに今日差し替えというかたちでお渡ししてございます。傾向的には大きくかい離するということはございませんでしたのでグラフ上は、ほぼ同じ傾向を示しているというところで御理解いただいても差し支えないかと考えてございます。

まず消費者のニーズということで、こういった機能が必要か、さらに、それに対してこういった役割やニーズがあるかを調査させていただいたところでございます。一例を簡単に御紹介します。例えば1番上の図を見ていただきますと当然ながら日常的な買物をする場所が欲しいという問いについては地元客の方が多い結果でございます。それに対して観光客は少ないというようなかたちで現れてきております。逆に名産品農産物などの購買行動については観光客の方が多くニーズとしては持っているというところがございます。こういった形で地元と周辺の皆さんの状況を見極めながら整理をしていったというところでございます。

次にページをめくっていただきまして6ページ、7ページ目でございます。こちら詳細は参考資料の方になりますが、農業関係、商工関係の調査をさせていただきました。こちらは消費者というよりは出

荷でしたり、参画という視点で調査させていただいてございます。主な内容ですけれども例えば農家さんに対しては出荷の意向があるか、ないか、あるいはこういった施設であれば関わりたいか、さらに、運営に対して関わりたいかどうかといった設問をさせていただいております。

同様に8ページ目でございますけれども、商工業者の皆様にも同じようにこの施設に対する納品納入等の希望でしたり、事業そのものに対する運営の意向の確認をさせていただいたところでございます。

こういった形でそれぞれの調査から求められる施設のニーズを判断していったというところでございまして9ページ目にはオレンジ色・緑色・水色で人が集まる拠点、産業を創造する拠点、人材を育成する拠点とありますが、これは昨年度の戦略会議の皆さんが総括意見として出された大きく3つの柱でございます。この総括意見を仮説として考えたときにそれぞれのニーズが適合しているかを整理したところでございます。

ここまで計画コンセプトの精査をしまして、さらに、次のページ10ページ目でございます。こちらが前回御意見をいただいて生の声を反映するということで調整させていただいたところでございます。戦略会議の「あ・さ・ひ」という視点で、コンセプトに基づく3軸方針、人が集まる拠点、産業を創造する拠点、人材を育成する拠点、これらを実際に利用者として想定される皆様にインタビュー形式で問いかけをしまして、そこからこのコンセプトが適正かどうか判断していったところでございます。利用者に関係する役割機能ということで例えば若者が集える、子育て世代が集える、シルバー世代を支える、さらに、美里ブランドの開発、担い手の育成といった視点からそれぞれのヒアリング対象を定めて調査をさせていただきました。

具体的には高校生については南郷高校、小牛田農林の学生に御協力いただいて、子育て世代については美里町内の女性の皆さんから30代40代を中心にお話をしました。シルバー世代、働き世代のほか、観光客という視点で仙台圏の女性の皆様にも御意見をいただいたところです。

特にコンセプトテストにあたっては働き世代については栗野委員さんに大変御尽力いただき、子育て世代、あるいは仙台の関係の皆さんですと東委員さんに特段の御配慮いただきまして円滑に進めることができました。さらに、高力先生、庄司先生から調査にあたって事前にこういった手法がよいのか御助言をいただきまして実施したところでございます。

代表例で主なキーワードというかたちで最後のページに載せておりますけれども、こういった精査を進めながら施設コンセプトに持っていったという状況でございます。

少し長くなってしまっていて恐縮ですが、簡単に参考資料について少し触れさせていただきます。

参考1について美里町民を対象とした調査でございます。こちらの資料の2ページ目、3ページ目を御覧いただきたいと思います。町内のニーズとして読み取れるところは、町内の皆様の調査によりまして2ページ目にあるとおり日常的な最寄り品の購買活動をしっかりしたいというニーズが5割を超えるという状況になっております。さらに、この施設が役立つために必要なものは何ですか？という問いを見ていきますと5割を超えるのが農産物の直売所、レストラン、喫茶・軽食、日常的な最寄り品の購買行動が欲しいというのが5割を超えている状況です。さらに、3割の方が支持しているのが温浴施設ですとか公園といった機能を求めている状況でございます。

同様に参考2の仙台市、石巻市、大崎市の方を対象にしたWEB調査になります。1ページ目を御覧いただきますと内数でございますが仙台市の皆さんの回答数が300でございます。石巻、大崎市の回答数は247でございました。

これも同様にこの調査の10ページ以降を御覧になっていただきたいと思います。字が小さくて申し訳ないですが、問3は住民調査の問1と同様の質問ですが、やはり町外の皆さんからすると、先ほど申しましたように物産等々の買物をする機能、あるいはレジャーという機能が比較的高くなっているというのがわかってまいります。またそれぞれ年代別に区分してみますと日常的な部分は若い女性が高かったり、物産の購入については中高年の傾向が高くなっていたり、レジャーはまた若い人が高くなっていたりと、そういう傾向が見て取れるという状況でございます。同様に住民の皆様と対比をしながら分析を進めていったところでございます。

18ページまで飛んでいただきたいと思います。面白いというかやっぱりそうだなというのが皆さんどこを利用されていますか？という問いもしてみました。圧倒的に「あ・ら・伊達」と「上品の郷」が大きくなっていると、2大道の駅という感じで回答結果にも出ている。また「三本木やまなみ」、比較的新しい「村田」の道の駅なども利用者が多くなっているという状況でございます。

さらに、隣のページで「あ・ら・伊達」と「上品の郷」の購買の世代数、利用者の世代数を見ると「あ・ら・伊達」は若い人が非常に多いという傾向がありますし60歳以上の方も多いということで、もしかすると品揃えの豊富さや品質が良いというところが中高年に支持されていて、一方ではロイズのような商品も若者を惹きつける魅力になっているのかなというのも見えてとれると考えてございます。

非常に簡単な説明で恐縮ですが、こういった形で調査分析させていただいているというところでございます。

次に参考3、参考4を御覧いただきたいと思います。

参考3は農家の皆さんに対する調査でございました。2ページ目の問4を御覧いただきたいと思います。出荷意向はありますか？という意向調査でございます。出荷したい、出荷することを検討したいという方が全体の32%、137人の方に御回答いただいたということでございます。また問7加工施設が整備された場合、あなたは利用したいですか？という問いでは利用したい、利用することを検討したいを含めると88名の皆さんが御回答されている状況でございます。

5ページ目の問8については運営に対する意向です。整備された場合、出荷加工以外にあなたの利用意向をお答えくださいという設問でございますが直売所の運営に携わりたいという方が17名、農産物の開発・商品化に組みたいという方が21名、あるいは体験農園・観光農園を開設したいという方が15名いらっしゃいます。これは今回のコンセプトというよりは利用形態の次の段階の検討する際にこういった方々のヒアリングを行いながら、より詳細を詰めていきたいと考えてございます。また面白かったのは野菜作りの研修会をして欲しいというところが結構ございまして、そういった方々も上手に取り囲んでいながら、施設開設の際にはある一定の商品を提供できるような支援も必要なのかなと考えてございます。

次に参考4でございます。商工関係の皆様にとりましたアンケートですが、前段は省略させていただきまして7ページを御覧いただきたいと思います。例えば7ページの一番上、活性化施設に納品したいですか？という問いには、納入したいが12名、納入することを検討したいが8名で20名の方が希望されているというところでございます。先ほどの農家の皆さんが130名ほどいらっしゃいましたので150名くらいの方がそういった意向をお持ちだということがわかってまいりました。

同じように8ページの問24-1で活性化施設の運営に関わる可能性ございますか？という問いをさせていただきました。とても興味がある、やや興味があるは19名の方が回答されている状況でございます。

こういったことも今後の運営形態の検討に活用していきたいと考えてございます。

既に調査が終わったもので説明というか経過報告になってしまいますけれども、以上ニーズ調査でございます。

(2) 整備計画について ア施設コンセプトについて

(佐々木座長)

ニーズ調査の説明に対して委員の皆様から確認したい点などございましたら頂戴したいと思います。なければ次に進みたいと思います。

続きまして、整備計画について、ア施設コンセプトについて、事務局から説明をお願いいたします。

(小林室長)

それでは資料3をお手元に御準備いただきたいと思います。

先ほどのニーズ調査から流れてきているわけですが、人が集まる拠点、産業を創造する拠点、人材を育成する拠点というかたちで色々な視点からスクリーニングをして精査をかけていった、グループインタビューを通して、2ページ目の施設コンセプトの検討をさせていただいております。

こちらがグループインタビューをした結果をまとめたものでございます。オレンジ色・緑色・水色が、戦略会議さんが総括意見として出された3つの柱ですが、これをひとつの仮説として皆さんに問い掛けをしてきたというところです。

そのグループインタビューから得られたキーワードを真ん中にまとめております。さらに、キーワードを小分類・大分類というかたちでくくり直しをさせていただき、それから皆さんが求めている機能、求めている空間は何なのかを読み解く作業をしていったという状況でございます。例えばキーワードの中には水遊び場が欲しい、芝生などの広い公園が欲しい、あるいは足湯が欲しいやご当地のアイスクリームは絶対欲しいという御意見をいただきながらくっていったという状況でございます。これをコンセプトのキーワードというかたちでそれぞれ再度、再編したものが、右側から2列目のところです。癒し、ゆとり、味わう、賑わい、学ぶ、創る、育てるというかたちでそのコンセプトのキーワードに置き換えたところです。

さらに、それをコンセプトの視点から変換をさせていただいたのが、「やすらぎ」と「ときめき」という表現でございます。こういったグループインタビューを経て、今、利用者に求められているのが、「やすらぎ」や「ときめき」という空間形成が必要なのではないかという検討をさせていただきました。

3ページに移ってまいりますと、これらの精査をしたところで一方では美里町の魅力・ブランドの発信がございまして、プラスして利用者の視点から、「やすらぎ」、「ときめき」という空間形成をしていく必要があると施設のコンセプトといたしまして《お美しい里から、「やすらぎ」と「ときめき」をあなたへ》という設定させていただきました。ここでは計画コンセプトと施設コンセプトを今回、区分させていただいております。計画コンセプトは当然「あ・さ・ひ」というところで、一番初めにお話をしました、いつでも笑顔をといるところですけれども、あれは産業全体、美里町の産業振興の政策としてのコンセプトとして設置をいたしまして今回、施設コンセプトはあくまでも利用者目線でどういった空間を作っていくのかどういったものを提供するのかという視点から切り分けてコンセプト設定をさせていただいたところでございます。

さらに、次の4ページ目でございますが、当然、公共がやるお仕事なので利用者の皆様は幅広い対象の

皆様が利用していただくことが前提となるのですが、やはり経営というところも視点も入れていかなくては行けませんので、ある程度のターゲット設定が必要だと考えてございます。

そこでターゲット設定については、ここで簡単な整理をさせていただいておりますけれども、まずはそのターゲットの特性を踏まえて機能導入方針を検討することが必要であるという視点がひとつ、さらに、持続的に新たな価値を提供し続けるために、消費活動を目的としない方々をまずは集める。人が集まったことによって、価値やサービス提供を通じて消費が喚起をされる。賑わいを創出して消費を喚起していくというようなことが必要だろうと設定をしてございまして、具体的に申しますと、やはり女性をターゲットとするというのがまず1つでございます。消費購買行動ということで、男性よりは女性になりますし、では女性の中でどの辺をねらっていくのかという話になってくるのですけれども、色々な調査の傾向を見ていくと、どうしても40代50代60代をターゲットにしていく必要があるかなと考えてございます。これは土日休日の利用も含めて購買意欲が旺盛な世代ですとか、時間的にゆとりがあるとか、これは庄司アドバイザーからもご助言を事前にいただいたのですが、女性の購買特性として自分の世代よりちょっと若めのところをねらっていくという視点もあるようでして、そういったところで40代から60代ぐらいのところに的を打っての施策展開が有効ではないかと考えております。

こうしたことで先ほどのコンセプトの展開ということで6ページ目になります。今回、おおまかなロードマップを描かせていただいております。先ほどのコンセプトをどのように体现していくのかということになります。まず第1期として考えておりますのが農業を主軸としました新たな魅力の創出。まずは基幹の産業をしっかりと立て直していこうというのが1点でございます。それに伴って第2期はそれぞれの付加価値をきっちと高めてきっちと発信をしていきたいと思いますというものでございます。

集まる、産業創造、人材育成のイメージですけれども、例えば集まるであれば地元の女性、あるいは子育て層の賑わい創出をきっちとしていきながら6次産業化あるいは農商工連携をきっちと絡めながら農業生産と商品開発を進めていく、こういったものを第1期として進めていかなければならないと考えてございます。

第2期に移っていけば周辺からより多くの皆さんをこの地域に呼び込んでいく。体験の観光でしたり、あるいはイベント開催といったものを実施をしていく。産業創造もより付加価値の高いものに成長させていかなければなりませんし、体験の観光農園などもこの辺で実施していく必要がある。人材育成についても若干、限定的な書き方になってしまって恐縮でございますが農業者の新規就労はもちろんですけれども、多様な人材を育成していかなければと思っております。

また女性をターゲットということでございますので、女性の皆さんがこの拠点の中で活躍できるようなセミナーなどを開催できる環境作りをしていかなければと考えてございます。財政的な部分もやはり考慮していきますと、1期、2期かなり大規模な事業となりますので、こういった想定の中で計画コンセプト、施設コンセプトを体现していく必要があると考えているところでございます。

長くなってしまって恐縮ですけれども、コンセプトになります。

(佐々木座長)

ただいまの「施設コンセプト」について、御意見、確認事項などございましたら、頂戴したいと思います。

(東委員)

施設の整備計画は、第1期と第2期と分けられていますが、それぞれの期間はだいたいどのくらいの期間を想定しているのでしょうか。

(小林室長)

具体的に何年というのはまだ想定はしていません。これから財政的な部分も考慮していかなければなりませんし、用地の取得も検討していかなければなりませんので、ただ連続性を欠くような拡張工事になりますと最終的な目標達成が遅れてまいりますので、お金の面を気にしながら遅れず急がず、進めていけるようにスケジュールリングをしていかないといけないと考えております。もう少し先の方で事業の実際のスケジュール感、工程をお出ししたいと考えております。

(高力アドバイザー)

私も施設整備計画の第1期と第2期に違和感を持っております。地元の方が定着してから地域外から集客するというのは、相当な仕掛けが必要であり、難しいと思います。初めに地域外から集客した後、地元の方を集客し定着させるというかたちをとらないと難しい。大抵の施設は話題を作って地域外から集客をする。その後、話題の収束とともにトレンドは去り、施設に愛着を持っている方がリピーターとして残る。例えば、施設の想定が違いますが恵比寿ガーデンプレイスが、トレンドが去った後も、コンスタンスな施設でいられる理由として、地域の人たちの憩いの場になっていることをあげることができます。今回の施設整備計画の第1期と第2期のステップアップができるのか不安要素でございます。

(小林室長)

皆さんから御意見を言っていただく場なのでいただいた御意見で再検討したいと思っておりますので率直な御意見をいただきたいと思っております。

(東委員)

先日、仙台で実施したグループインタビュー調査の結果を踏まえると、今は地域外に対してアピールする良いタイミングではと思います。グループインタビュー調査の対象とした方々は、既にお客さんとして美里に来て下さっています。施設整備計画の第1期、第2期に対して、高力先生と同じような意見を持っています。

(山内オブザーバー)

資料のアンケート結果を見ると、地元の方は施設に日用雑貨を購入する場を求めています。地域外の方々はもちろん観光や物産を求めています。その求めるものの違いをどのように取り入れていけば良いのか。例えば地元の方々がウジエを利用するようにとらえている場合、観光客向けに提供する商品とのバランスやギャップをどのように考えていくかが気になる点です。地域の方々を満足させて、さらに、メインターゲットである地域外の方々を満足させる品ぞろえやコンセプトをどう展開していくのかが気になったところです。

(小林室長)

先ほどお話しているようにコンセプトに対してターゲットを明確にしていったときに、そこで何を提供できるかを考えていくと、例えば同じ野菜を出すにしても女性をターゲットにすることによって健康や美容という視点をちょっと加えていって住み分けをしていかないと、ヨークさんとウジエさんと買物をするのとどこが違うのかとなってきますので。運営する法人並びに納品する皆様との共通の理解を図り、美里でしか体験できない空間や商品を提供できる施設にしていくという共通理解を、時間をかけて作っていく必要があると思います。なかなか一長一短では住み分けは難しいと考えております。皆さんに利用していただくが、ある程度はターゲット設定をして支持していただくような運営をしていくというのが求められると考えておりました。

(木村委員)

商売人的な立場でよく見ると資料には美里町の商品を売り、もうける施設という視点が少ないと思います。資料3の4ページに消費活動と目的をしないという説明がありますが、今回の施設は美里町の商品を売って、活性化することが大前提ではないでしょうか。ここで否定するような言葉を入れるべきではないと考えます。どういう施設を作ろうとしているのかイメージがわからないという意見です。

(小林室長)

ありがとうございます。当然、商業施設の部分は自立した経営が求められますので経営という視点から消費をしていただくところを目的としています。施設全体としてとらえたときに、まずは消費を直接的に喚起するよりも、賑わい創出をして空間を求めて、人を集めて消費をしていただくという流れで考えておりました。消費直接というよりワンクッションを置いた表現をさせていただいておりました。

(木村委員)

非常にまわりくどい感じがしました。

(オリエンタルコンサルタンツ萬代)

補足しますとグループインタビュー調査を実施させていただいた結果、お子さん連れのお母さん方は単純にお店に行くのではなく、子どもが集まってくつろげる空間をベースに買物やカフェの利用などの消費行動をするのが普遍的であると考え、あえてこのような表現にさせていただいています。

(木村委員)

消費活動を目的としないという否定的な文章はやめた方がよいのではないのでしょうか。

(小林室長)

目的としないわけでは決してないので訂正いたします。

(佐々木座長)

資料3の施設コンセプトを実現するための想定では直接的な消費活動を目的とするという表現よりも遊びや癒しを求めて来たついでに消費活動が喚起されるという間接的な表現だったかと思いますが、少し表現を直した方がよいのかもしれません。その他何かございませんか。

(涌井委員)

農家向けのアンケートの結果では野菜作りの講習会に参加したいという意見について、農協は何をやっているのかなと思います。むしろこのような設問は市民農園がある仙台の消費者向けのアンケートにあったら面白かったのではないかと思います。また今現在ある調理場等の施設利用も考える必要があると思います。既存施設を利用しながら発展させる案も必要になります。昨日、参加した会議の話題で東京オリンピックでは認証外の食材は利用できないという決まりごとがあるようです。JAを使って認証制度を取得すれば、ヨーロッパから輸入せずに日本国内の食材でさばけるという話がありました。宮城県では3か所で認証を既にとっているそうです。我々も認証目的ではなく農業の活性化の意味合いで勉強会を開き、直売所での安全・安心な商品の提供が必要になると思います。

(東委員)

オリンピック用の認証ですか？

(涌井委員)

オリンピック用ではない。話を聞いているとあくまでも安全安心。そんなに難しいものでもなく一商品に対して10万～20万程度の経費はかかりますが、あとは資料作りには時間がかかります。団体にア

ドバイスをいただきながら共同制作していければと思います。今の農業人口はこれくらいだが、5年後になるとどうなるかわからない。花野果を見ているとおじいちゃん、おばあちゃんが主流で色々考えざるを得ない部分もあるし、女性というターゲットは消費者だけではなく生産者側もおばあちゃんが作ったものをおじいちゃんが軽トラで運んで品物を並べている。いったい男は何をやっているんだと女性の力を常々感じています。

(小林室長)

野菜作りについてのニーズがあるというのが確認できただけでも収穫があったと思います。尾崎常務さんが言いづらいと思うので代弁いたしますと、JAさんも教室はやっていただいておりますので、町として、きちっとタイアップして農家さんも含めて女性や新規就農したいという方に対して、野菜作りの教室なども、オープンにソフト展開していかないと作った方がいいが並べるものがないというのは困りますので、そういった取り組みも同時並行で進めていきたいと考えております。

(佐々木座長)

栗野さん何かありますか？

(栗野委員)

せっかくこういう施設を作るので「あ・ら・伊達」みたいな成功事例を見習うべきだと思います。成功要因のひとつにロイズのテナントがあると思います。今回の提示資料中のキーワード「集まる」という部分でカフェの利用と書いてあります。例えばスターバックスみたいな店舗の呼び込みを早い段階から調整しておいた方がいいと思います。ただブランドに依存してしまうのもどうかと思いますけれど、成功には必要な戦略だと思います。

(小林室長)

栗野委員さんがおっしゃるとおり、若いお母さん方に集まっていた際にお茶ができる空間がないという意見はたくさんありました。仙台のお母さん方も美里町は十分に足を運ぶエリア内ですよと言っているのでもくつろげる空間があって子どもたちを遊ばせているときに買物をしてお茶をして夕方帰るといふところがあるとすごくうれしいということでした。逆に仙台市内でできないのだそうです。あるようでないというのが仙台市内のお母さん方のお悩みでした。来ていただいた6名のうち3名ぐらいが週末は山形に通うとおっしゃっていて、東根や天童の子育て施設にいくというお話もありました。

(東委員)

山形には子どもを無料で遊ばせる場所が3か所くらいあります。

(小林室長)

各地に直売所は多く見られるが、本当に無農薬野菜に特化した直売所であつたり、無農薬野菜のみを使用したお惣菜を販売している店舗は見られないので、そういったところに配慮してくれる直売所や道の駅があつたら良いよねという御意見もいただいておりますのでスターバックスと絡めて誘致できるようにがんばりたいと思います。

(佐々木座長)

その他ございますか。

(山内オブザーバー)

先ほど5年後どうなっているかわからないという話があつたが農業を担う方々の高齢化がより進み、

農業を担えない状況ということだと思う。それを考えると新規の就農者が必要で、色々聞くと若い方で農業をやりたいという方がいるのですよね。

（東委員）

女性もかなり興味があると聞いています。

（山内オズバーバー）

私が常々考えますのは、新規就農者の取り込みの課題としては独り立ちするまでの必要最低限の生活をどう保障するかという点があると思います。この問題をクリアでき、その方式が根付いていけば、自分の長男や次男に継いでもらわなくても、別の熱心な若い方が来てもらい継続していけるわけですよね。

（涌井委員）

まさしくそのとおりで法人にする目的は後継者が育つことだと思います。法人化の良い悪いは別として、集落の中で自分の子どもには跡を継がせず、会社勤めに出して自分たちが動けなくなったらどうするのかという答えは出てない状況です。集落の中で年をとった人はこのような問題を先送りし、今までずるずる来たところ、自分が動けないという状況になったときに農業を廃業する状況にあります。

若者に対しての道標を作らずに漬け物の重しを背負っていて、これでいいのかと疑問視しています。働き手は小牛田農林から就職で受け入れたら良いが、それなりの給料や社会保障をどうするか、話し合いだけでもしていかないといけないと思っています。企業ではなくて個人のやる気がある人を受け入れて集落でどう支えるかはひとつのいい例ですよね。

（山内オズバーバー）

新規就農を目指す人たちの必要最低限の生活を支える受皿であっても良いのではないかと私は思います。

（東委員）

この間のグループインタビューで奥様方から聞かれた意見には、最終的には美里町で子育てするのはいいよねという意見もありました。美里町は子育て環境、支援が周辺に比べると良いのでそのような条件を他地域にアピールしていけばここに住んでいただくのも十分可能だと思います。さらに、良かったら農業やりませんか？旦那さんは仙台へ、奥様は職業として農業を選んでいただけたら良いのではないかと思います。

（涌井委員）

農繁期などは、花野果市場のレジの女性の人たちは、終わったら助っ人に来てとかの頼み方もあるのでないでしょうか。

（山内オズバーバー）

小牛田農林さんの意見の中で、お年寄りと農業をやるというのは素晴らしいことだという意見がありました。いずれ5年10年後にお年寄りが実際農業をやるのが苦しいとなっても、農業の経験や知恵を活かして体験農場の先生になってもらい、指導にあたっていただくということをすれば、お年寄りの生きがいにもつながると思います。宮城大のコンテストでも似たような案がございました。80歳90歳過ぎてもお達者であればお米や野菜の名人として体験農園で働いていただくというのも良いと思います。

（東委員）

アンケート調査の質問に野菜作りの講習会に出たいですかという質問がありますが、私は「講師として出たいですか」という意味と理解したのですが、本来の質問の意図としては「勉強しに来たいですか」と

という意味でしょうか。私としては、教える立場からも施設に参加していただきたいと考えています。

（涌井委員）

体験農園の指導者としては、鍬を使える世代がまだ残っているので今がチャンスだと思います。特産品の開発においては、今でも梨づくりでピューレなどの試作も行っていますし、飲食店で梨を使ったスイーツなどの出店など生産可能かわかりませんが、スターバックス等を連動させても良いのではないのでしょうか。

（山内オズバーバー）

小牛田農林もこの前やったようですが、高校生が経営するスイーツ作りの模擬会社という取り組みが考えられます。南郷高校や小牛田農林が交代でスイーツを作って販売することも可能かと思います。スタバではなくてもそのようなカフェが1軒できたらと思います。鳥取県ではカフェはやりしているのでスターバックスというブランドにこだわらなくても、美里町でカフェがはやることも考えられると思います。

（小林室長）

御意見にあったように小牛田農林の先生や生徒さんも、ぜひこういった場を活用したいというお話をしていました。小牛田農林さんはわざわざ上品の郷まで行って、定期的に出店の活動をしているそうなので身近にあれば活用したいという意見を出していただきました。南郷高校さんからも同じ意見がありました。今回のグループインタビューでは学生さんが純粹で前向きで心を打たれました。ぜひ若い力を活用していきたいと思います。

私の方から皆さんにお聞きしたいのですが、3ページのコンセプトについて事務局は語彙不足で良いフレーズがなくて女性をターゲットと言いながら、東委員さんや高力アドバイザーさんから見て女性に響くコンセプトになっているか非常に不安なところがありまして、御意見を頂ければ幸いです。

（佐々木座長）

東さんいかがでございますか？

（東委員）

「お美しい」という単語はすらっと読めない感じもします。言い張ってしまえばこっちのものとは思いますが。「やすらぎ」「ときめき」はちょっとベタかなと思います。良いフレーズがすっとは出てこないですがもうちょっと何とかなるかなという感じはしますね。

（佐々木座長）

高力さんいかがでございますか？

（高力アドバイザー）

「お美しい里」は良いと思います。「やすらぎ」と「ときめき」はいらないかもしれないです。ここで掲げる施設コンセプトというのが「標語的」に言うものか、「ストーリー」として話すのか、象徴的な「ビジョン」としてなのかという問題があると思います。今回の案は無理やりまとめた感じがするので「お美しい里」や「お美しいお里」という感じで柔らかいところで終わってしまっても良いかなと思います。それでも「お美しい里」だけでは言葉が足りない、もうちょっと説明したいのであれば、その後の言葉を続けてもいいのかなと思います。

「やすらぎ」と「ときめき」という言葉自体にはインパクトが余りないかもしれないです。インパクトという意味では「お美しい里」という風に美里の美を美味しいと読ませる、言い切る方がいいような気が

します。このようなキャッチフレーズ作成にあたってはその道の専門家に案を出してもらうのが良く、1案ではなく色々並ぶとこっちが良いとか、これをこうした方が良いとかを意見が言えると思います。あとは見せ方なのでロゴ的に建物にしたときにどういうイメージなのか一体化して考えた方が良いと思います。この施設コンセプトはどこかに使うのですよね？

(小林室長)

ずっと使っていきたいと思います。

(高力アドバイザー)

すごく大切なので1案で決めるというのはすごくリスクだと思います。何案か出してロゴもつけて企業で言うとブランドを作るときのような作業があった方が良くかなと思います。

(東委員)

ブレストして何案か出したら良いのではないのでしょうか。

(小林室長)

表現の言葉はまた変えるとして先生の視点から見たときに不十分なところは多々あると思いますがコンセプトテストから持ってきた方向性、流れは大丈夫でしょうか。

(高力アドバイザー)

大丈夫だと思います。食べ物が焦点なので良いのではないのでしょうか。おいしいと言い切った方がわかりやすいと思います。

(2) 整備計画について イ機能・サービスの導入及び施設規模等について

(佐々木座長)

その他、コンセプトについて何かございますか。なければこれまで委員さんから出た御意見を踏まえてロードマップやコンセプトの表現の見直しをしまして、またさらに御提示いただきたいと思います。

次に、(2) 整備計画についてイ機能・サービスの導入及び施設規模等について事務局から説明をお願いいたします。

(小林室長)

資料3の7ページ目から御覧いただきたいと思います。施設コンセプトを実現するための機能・サービス導入方針でございます。先ほどの第1期、第2期の整備を説明させていただきます。

第1期の中で農業を軸とした新たな魅力創出の拠点というかたちで直売所・物産を軸としながら堅実な経営環境の構築をしていきます。さらに、商品開発を支援、観光の整備で賑わいの空間を形成していくのが第1期でございます。8ページ目では第2期で付加価値の創出、人材育成の基盤作りをしていくということでございます。9ページ目にこれまでの調査のニーズを落とし込んだ表がございます。

アンケート調査の結果やグループインタビューから浮き出てきたキーワードをもとに、どういった施設・機能が求められるかを整理したものになります。第1期、第2期という水色、緑色の部分、そして横の黄色がニーズ、アンケート調査で選択された部分、さらに、薄い水色の部分、グループインタビュー調査でキーワードから想定される部分をそれぞれ指数化しましてどういった機能が求められているか整理させていただきました。

次のページでその役割機能をより具体的に想定していったものでございます。導入施設の規模算定ということで、まずひとつ参考としたのが、ここにごございます設計要領、ある一定の基準をもとに算出して

ございます。また類似施設の事例を参考にしながら施設の規模を算定させていただきました。

11ページ目でございます。皆さんの意見をいただいて精査していきますが当面検討させていただいたのがこれらの施設でございます。第1期は駐車場から始まりまして前面道路、トイレ、授乳室、休憩所と道の駅の要件となる機能を整備してまいります。産直、レストラン、園地、体験施設、加工場等々を整備しながら、第2期として会議コミュニティスペース、防災施設や、チャレンジ施設などの整備も併せて検討していきたいと考えております。こういったところを想定しますと、だいたい建設規模で22,000平米となります。

12ページを御覧いただきたいと思います。立地場所でございます。立地場所につきましては前回渡部委員さんから候補の③もぜひ検討してほしいと御意見いただきました。町として改めて検討した結果、やはり比較検討の結果を踏まえていきたいというのが1点と、候補地③は平成30年の事業採択を目標に調査事業が進められている点などから、候補地①で検討させていただきたいと考えてございます。

候補地①の用地の分析をしたものが14ページ以降に整理させていただいてございます。ご存じの方がほとんどかと思いますが、108号線沿いに立地する用地でございます。陸羽東線と108号線に挟まれている部分でございます。敷地の分析を整理させていただいております。涌井委員さんから御心配の声をいただきました西から吹く風の影響や鉄道を挟んでのロケーションでしたり当然108号線からの景観の整理をさせていただいたのが14ページ以降から16ページ目までになります。

18ページを御覧ください。配置の方針でございます。まずは1点目です。①国道からの見え方を重視するのが必要と考えております。主たるアプローチとなる108号線の道の駅として見つけやすい配置をするというのがまず1点目でございます。自動車動線を考慮して駐車場、交差点、サインを適切に配置していく。また国道側にレストラン・物産等の賑わい施設を配置して入りたくなる施設を形成するというところでございます。

②ここにしかない風景の特徴を活用するということで、水平方向に広がりのある土地ですので広がりを見最大限に活かせるような配置としていきたいと考えております。また国道沿いに植栽されている桜並木を活用しながら景観形成を進めていきたいという風に思っております。また段階的に1期、2期という視点も同時に持っておりますので拡張性も考慮しながら施設配置を検討していきたいと思っております。

それを案として20ページ、21ページにおおよその概要を御提示させていただいております。御覧のとおりですが大体のイメージを想定させていただいております。これで固めたものではございませんので色々な御意見をいただきたいと思います。まず、第1段階として駐車施設、建設施設、西風に対する部分を考慮していきたいと考えてございます。そのうえで機能を拡張していきながら、最終的には最後のページの完成形として直売関係、体験の部分、緑地の部分を配置していきたいと考えております。また、警察署さんと協議をさせていただいて具体的に道路からの乗り入れがもっと長くとる必要があるなど御指摘をいただいておりますので皆さんからの御意見をいただきながら精度を高めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(佐々木座長)

ただいま御説明申し上げましたが、御意見、確認したいことがございましたらお願いいたします。

(尾崎委員)

戻って恐縮ですが第1期、第2期が非常に気になるところです。ここをきちっと整理をしないといけな

い。出発点は大事なのでこれを整理しないで進めてはいけないと思います。

（佐々木座長）

先ほどの話に戻りますが第1期、第2期については、位置的には皆様御理解いただいているのではないかという気がしておりますが整備の順番ですね。その他、何かございませんでしょうか。

（渡部委員）

場所は特に問題ないかと思いますが気になるのが防災ということを考えてとかなり低い場所かなというような記憶がありまして。ハザードマップを見てきましたら町では赤マーク（浸水深2.0m～5.0m）の場所ですが、その部分も考慮した建設になるのでしょうか。

（小林室長）

渡部委員さんご指摘のとおり、ここの沿線は実は全部沈んでしまう。美里全体が山の無いという地形で低い土地です。当然、施設整備の際にある程度のかさ上げ、想定した高さまで盛らないと機能しないと考えておりますので考慮していきたいと考えております。

（佐々木座長）

そのほか、何かございませんでしょうか？

（高力アドバイザー）

私は建築の専門家ではないのですが、現在想定している土地面積はそんなに大きいというわけではないので、アスレチックや体験農園や緑地イベントスペースを色々取ると、そんなにたくさんとれないと思います。無駄をなくさないといけないのではないかなというのが1点です。

今後、設計のプロを交える際には、お母さんたちが遊べる場所と言っていましたが、単なる平面では面白くないので防犯上、色々あるかもしれないが建物がずれて奥にも施設があるような、建物1個で周りを取り巻くのではなくて建物にも点在性があるし、エリアにも点在性を持たせた方がよいと思います。何故かというとそのような配置には回遊性が生まれます。回遊性を作るためには、目的に合う小屋にいて休んで、次にこっちにいてという仕掛けづくりが必要になるので、お母さんたちが遊ばせたいと思うのはただ広いのではなくて、何かしらの回遊性、面白さがある、せっかく作られるのであれば楽しく、趣があるというのがコンセプトなら、ちょっとした仕掛けがあるといいなと思います。単純にポンと道の駅です、建物です、では面白くない。お美しい里という、里って何？里を表現するのであれば、施設コンセプトが里であれば、里山とかの風情がぜひ欲しいと思います。嘘でいいので茅葺屋根とか木の建物があるといいと思います。

（東委員）

平らなところで遊ぶよりも起伏があった方が断然に面白いですよね。

（高力アドバイザー）

お美しい里って何だというイメージを美里の人に意見を出してほしいです。施設コンセプトがそこにあるならばそれを体現する施設・エリアが理想ではあります。

（渡邊委員）

儲かる話をしたいと思います。40代、50代の女性をターゲットにした、できればセレブ的な要素で、それについてくるのが亭主でございますので、産地直売的な要素、体験などもありますけれど、ある程度の現実的な運営も出てくると思います。集客、一人の単価、いくら使ってくれるか、トイレ休憩では全然お金は入りません。その辺を考えていかないと一人500円使ってくれるのか、1000円なのか、1日

3000 人来てくれたら、何百万となります。

我々も相談しながら、事務局も一生懸命がんばっていただかなければならない事項です。継続的な発展が目的でしたら人気のある施設、興味のある施設、やすらぎという魅力のある、こじやれた施設が今の30代～50代の方達は魅力を持っております。多少でも施設に入る方、施設を運営する方は利益を追求する必要があります。

(佐々木座長)

運営は次回になります。

(涌井委員)

去年まで実施していた花ロードでのバザーのような定着したイベントを事前に開催し、完成時に緑地内へ移行したいという提案です。地域外から来るお客さんも入りやすい環境作りを参加する団体と話し合い、管理運営する必要があると考えます。また今から花や木を植えておけば、3年後、5年後には見頃になるので虫などの環境問題も併せて検討して景観を維持していくことも必要と考えます。

(佐々木座長)

全部ではないが桜の木は町で管理することになっています。施設の周辺は必ず良い環境にするのが絶対条件だと思います。

(高力アドバイザー)

先ほどから渡邊会長さんも仰っていたとおりもうけるのは当たり前の話です。また栗野さんが仰っていたキラーコンテンツやキーテナントも必要になります。ロイズのようなキラーコンテンツは簡単に誘致できるわけではないですが、皆さんで知恵を絞り、オープン時に必ずないといけないと焦って妥協することなく、施設に合ったキーテナントを慎重に考えて欲しいというのが私のアドバイスです。スターバックスの場合も、彼らのメリットとしてドライブスルーや郊外型の実験店を置きたい等があります。逆にこちらが提供できるものをニーズと併せて提案をする必要があります。

物販は小さい面積で売上げを上げることができるが、スターバックスのようなカフェは面積が必要になるといった単価の問題や色々な条件を合理的に考えて儲かるという視点で集客に強いものを考えていただきたいです。

(渡邊委員)

昨日は天気が良く子どもたちが公園にたくさん寝そべっておりました。そういう姿を見ると、のびのびと日光浴しながら遊べる芝生の広場があって良いと思います。

(山内オブザーバー)

これまでの説明で農業者の方々が学びの場を求めているデータが出てきており、また栗野さんのように自分の作った大葉を加工する場がなく大変な思いをされている話もありましたので、ラボが第2期に入っているのが残念かなと思いました。

(小林室長)

1期、2期については整理しないといけないと思っていたので、先ほどの渡邊会長さんの御意見と同じように収支がとれるところはどこなのかをまず攻めていく必要があります。加工場のところはアンケートにあったように約20名の方です。具体的にどのような加工場が欲しいのかをもっと深堀していかないと、どの段階でという判断がまだ難しいと思っていたところです。色々な集落に過去作ってきているという経験値もありまして、もう少し精査をしながら1期にいくのか

2期にいくのか検討していきたいと思います。

(山内オブザーバー)

情報コーナーと休憩施設は切り離さないといけないのでしょうか。もう少し休憩施設のスペースをとり、インフォメーションデスクを設置し、大型の画面で近隣の交通情報を見せたら良いのではないかと考えました。

(小林室長)

休憩施設、情報コーナーや駐車施設もありますが、今はイメージで詳細な設計は先ほどの高力先生の御意見もいただきながらきちとしたデザインを描いていくのは次の段階になります。今日は齋藤専門官にもお越し頂いておりますが、道の駅の機能をお話ししますと道路の一部というとならえ方になりますので、そういった施設配置も国交省さんのご指導もいただきながら、また設計も進めながらという作業になってきます。そうした中で情報施設が道路環境施設としてどこが良いのか、拠点施設の中ではどこが良いのか、擦り合わせしていかなければならないと思っております。

(佐々木座長)

齋藤専門官どうぞ何かありますか？

(齋藤オブザーバー)

あくまでも道の駅ですので情報発信は外せないところでございますが、道路交通利用者の休憩施設が一番の意味合いになります。ただし現在、道の駅は変わってきておりますので、目的地となる施設を目指して大いに利潤を追求し検討頂ければと思います。立地については108号線で成功している「上品の郷」、「あ・ら・伊達」のちょうど中間の地点にあり魅力的な場所であると事務所でも統一の意見となります。中身の検討を十分にいただき、大きく発展していく道の駅になっていけばと思っております。

(東委員)

アスレチック6,000㎡というのはどういうお考えでしょうか。子どもが遊ぶ場でしょうか。

(小林室長)

広場面積を表しています。遊具を備えた広場になります。

(涌井委員)

この施設から東側は直売所がそろっているので周辺施設も含め、町外へPRしていただきたいです。と言うのも、利府の梨がおいしくないので美里町の直売所に買いに来の方が結構多いのです。利府は小高い丘で作るので夏場の日照の関係で小さい、水分不足などの現象もあるようです。

(渡邊委員)

美里町の梨はおいしいと思います。

(佐々木座長)

施設の機能の面で何か御意見はございますか。

(尾崎委員)

広大なアスレチックや緑地を管理するのは大変でしょう。緑地の管理は簡単ではなく管理費用がものすごくかかるのではないかと。子どもたちの遊び場は必要だが管理費用がものすごくかかるのでもう少し検討された方が良くと思います。

(山内オブザーバー)

北浦小学校にも芝生はありますが、あそこは保護者の方が管理しているのですか。

(東委員)

芝生の維持は大変ですよ。お手入れが大変なので限定的なスペースで良いと思います。

(山内オブザーバー)

コストを抑えるために住民の皆さんに有志でやっていただくことも考える必要があると思います。ある程度の広さは必要だと思うが、維持するには大変なお金がかかるのは確かです。仙台市でも道路沿いの雑草を刈るのに業者を使っているが、地域の住民の方々がやりますという話になれば無料になると思います。

(渡邊委員)

無料ではありません。ボランティアも有償ボランティアになるので日当を出さないといけません。

(東委員)

ボランティアはあてにならないですよ。義務ではないので必ずやってねとは言えないのが弱みですよ。

(渡邊委員)

ある程度の賃金を払わないときちんとした管理はしてくれないですよ。ボランティアだとわがままでダメですよ。

(栗野委員)

私は上品の郷に出店していますが、施設の清掃は一か月に一回、出店している人が実施しています。

(東委員)

出店している人がやるべき、それも含めた家賃ということで。

(山内オブザーバー)

ある程度の広さは必要だと思います。それが大きな売りになるので。その管理コストをどう抑えていくか仕組みを考える必要があります。

(東委員)

遊び場としては奥の駐車場にいく途中に丸いスペースがあるが子どもの姿は見えないです。

(山内オブザーバー)

涌井さんもおっしゃったとおり活性化施設を町内外にPRしていくプレイベントが必要です。空いている土地を使って花を植えるなどシンボライズされたイベントが必要ではないでしょうか。

(東委員)

花には集客力がありますよ。美里町は渡邊採取場ありますので。

(山内オブザーバー)

花やハーブなどを植えて花も見どころの施設が近くにできることをPRしたり、物販でも市場やバザーをプレで開いたりすることも考えないといけないと思います。

(東委員)

アジサイは丈夫で良いですね。

(涌井委員)

例えば花野果市場でも空き地がなくなったので雑草の管理がなくなりましたが、それまでは梨畑の草

刈り機を使い、不足の部分を生産者の人が刈っていた。そういうやり方をして来たので緑地だけではなく店の中の管理を含めて出店者の力は大きいと思います。

（渡部委員）

アンケート調査の回答において、良く利用される施設として近隣のかなり売上げの高い道の駅2か所があげられています。2か所とも関わりのある部門ですが、近々では花の関係ですとか、彼らは彼らでマーケティングをして今それぞれの施設に足りないものをなんとかしたいということで、アンケート調査をしていまして、こういったニーズが転がっているのか、通過する人たちの年代はどの世代なのか、観光客が中心なのかを調査しています。実際あそこの農産物を使っているのは旅館関係者がかなり多いという状況もありまして、これらは固定客ということで相当な売上げとなっています。また、これらの農産物は生産者の名前で選んで購入されていく状況であり、そのように売上げのある方はごく少数であります。その他の売上げが少ない生産者は辞めさせるわけにもいかないのでその人たちの農産物の品質を向上させるよう努力しています。そういう売上げの高い道の駅でも試行錯誤しています。

商品のPRを駅長ができるとか、そのような独自の取り組みについては一回ヒアリング調査にお伺いしてもなかなか教えてもらえないし、大変な仕事でしょうけど、ちょこちょこニーズ調査も入れていくと、このような手法だったらできそうだなという部分が出てくるのかもしれないなと思いました。「上品の郷」は農林水産省のプロジェクトと連携して、さらに、女性農業者、農業女子の支援を普及センターも絡んで、子育て世代の農業者の女性をいかに取り入れていくのか、農産物も置いて、かつ、こじやれたクッキーとか加工品もコラボで作らせるという作業をなさっているという状況です。専修大学とのコラボもあり温泉もあるので客層が違うみたいですので近場をうまく、今悩んでいることも全部ひっくるめた中で相談を持ちかければ悩みも少なくて良いのかなと感じておりました。かなり難しいと言えは難しいですが。

先ほど健康に配慮した農産物とあったのですが非常に難しい時代で健康機能性、栄養を表示できない時代に逆なっているので安全・安心・新鮮をメインに考えた農産物のコンセプトが逆にいいと思います。機能性をうたっていったら、膨大な金額と年数がかかってしまいます。涌井さんが話していたことはグローバルGAP（農産品の国際認証制度の一つ）の話だと思いますが、講習を受ければ数か月でとれるようなものです。お金はかかりますが。そういった形でとっていくのも有効かと思います。あとは加工場について自分が必要だと思うのは、その場で調理できてすぐに提供できる調理場が欲しいと思います。栗野委員さんの言うラボとは別の意味での加工場になります。この中に入れなくても近隣に違う場所にあっても良いと思います。

（佐々木座長）

ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。機能や維持管理についてコストも抱えますのでうまく土地の活用を考えてお願いしたいと思います。何かあればどうぞ。

（小林室長）

御意見たくさん頂きましたので、今日お出ししたのが事業費を一切お出ししないで、あくまでもニーズ調査から役割機能をずっと求めてきました。逆に事業費や経営という視点から積み上げる作業も必要だと思っておりますので次回以降、御提案させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（3）今後のスケジュールについて

(佐々木座長)

ほかになれば、次の今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。

(佐藤産業振興課長)

今後のスケジュール、第3回目の予定でございますが、12月8日(火)を予定しております。皆様のご都合がよろしければ、その際に第3回ということで今回出した資料の部分で御提示させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(佐々木座長)

それでは次回の検討会議の開催について事務局から説明のあったとおり12月8日(火)14時からぜひ日程調整をお願いしたいということでございます。委員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(渡邊委員)

大丈夫です。

(佐々木座長)

日程につきましては12月8日(火)14時からお忙しいと思いますがよろしくお願い申し上げます。それでは事務局から皆さんに申し上げたいことや何かお願いしたいことがあればお願いします。

(小林室長)

特にありません。

(佐々木座長)

最後になりますが委員の皆様からこれまでの御協議いただいた中で何かまとめた御意見ありますでしょうか。なければ閉会いたしますが、色々と御意見いただきましてありがとうございました。それでは進行をお戻ししますのでよろしくお願いいたします。

閉 会

(佐藤産業振興課長)

委員の皆様には長時間に渡りまして色々な御意見をいただきました。次回の第3回につなげるように努めて参りたいと思います。本日は大変お疲れ様でございました。